

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	マッド・アンティクス	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：マッド・アンティクス

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 5 インチ

研磨剤

番

比較対照ボール：インセイン・アンティクス

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

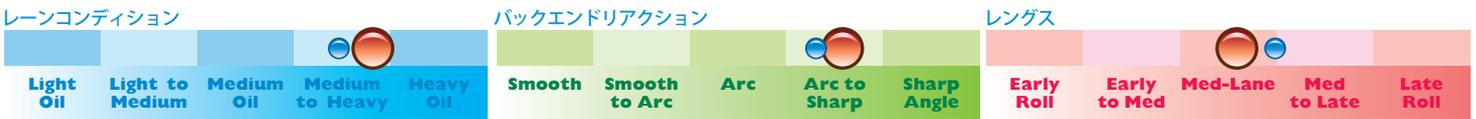
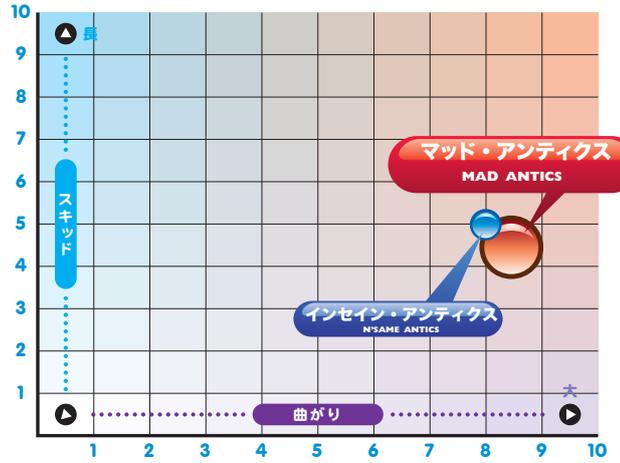
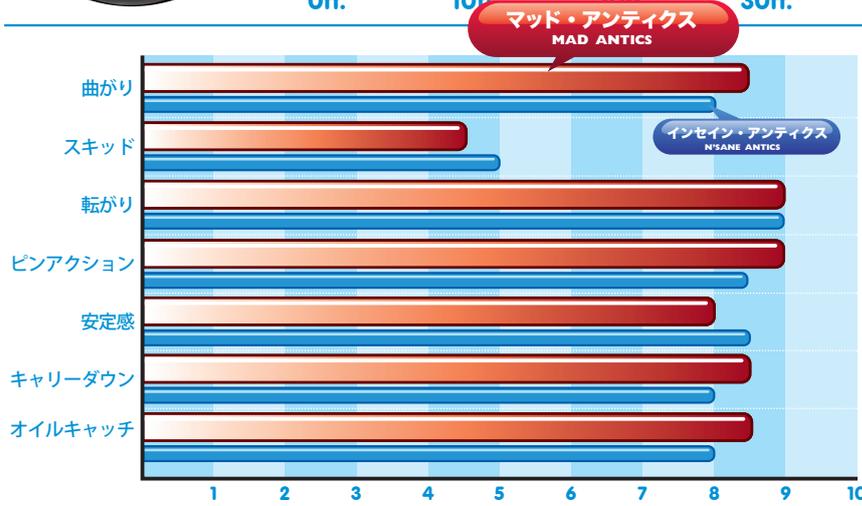
PAPからピンとの距離 5 インチ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

Columbia社は各社High Performance競争に英知を注ぐ中、このMad Anticsで勝負にでます。Anticsシリーズに共通して言えることは、Hi-Dynamixコアがもつ運動性能は高く、しっかりと軸移動してフィニッシュするイメージがあります。そしてHi-Dynamixコアは実用性と万能性が高いため、キャッチ系のカバーストックから走り系のカバーストックに至るまで各々性質の違いをパフォーマンスとして表すことのできるものがColumbia社では中心となるコアになっている理由です。今回のMad AnticsはAR350 HybridというAnticsシリーズに共通して使用されていたAR300カバーストックをキャッチ面でバージョンアップ。Hybrid化させることで前作N'Sane Anticsよりもキャッチさせ、Crazy Anticsのようなバックエンドリアクションを実現させるコンセプトで開発されました。実際投球するとAR350カバーストックは名の通りにキャッチ面ではN'Sane Anticsを上回り、曲がり始めもボール2個ぐらい手前から始まります。それでもバックエンドでコアがネジれる感じがみてとれるのはモーションポテンシャルが大きいと言えます。またMad Anticsはスムーズに動きを出す傾向の性能分布に収められています、ドライゾーンでのシャープな動きは非常にダイナミックで、スムーズにミッドエリアを通過してからHookからRoll期からの動きの強さは、ピンに強いあたりを実現させてくれます。重厚かつ低いアクションが特に薄めのヒットをサポートしてくれます。ミッドエリアから安定したキャッチ力とバックエンドでネジれるリアクションを求める方はこのMad Anticsは外せません。

特記事項

実用性と万能性の高いHi-DynamixコアとバージョンアップさせたAR350 Hybridカバーストックとの組み合わせ。ミッドエリアの安定感とバックエンドのしっかりとした軸移動がなす確実な入射角が特徴です。